

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	熊本県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	熊本県荒尾市立荒尾第一小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	24
児童数	61	69	65	64	53	46	2	360	

研究の概要

1. 研究主題

“ブレイクスルー”一人一人に確かな学力を保障する一小システムの構築
-基礎・基本の徹底を図り、思考力・判断力を高める指導と学習環境の工夫改善-

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

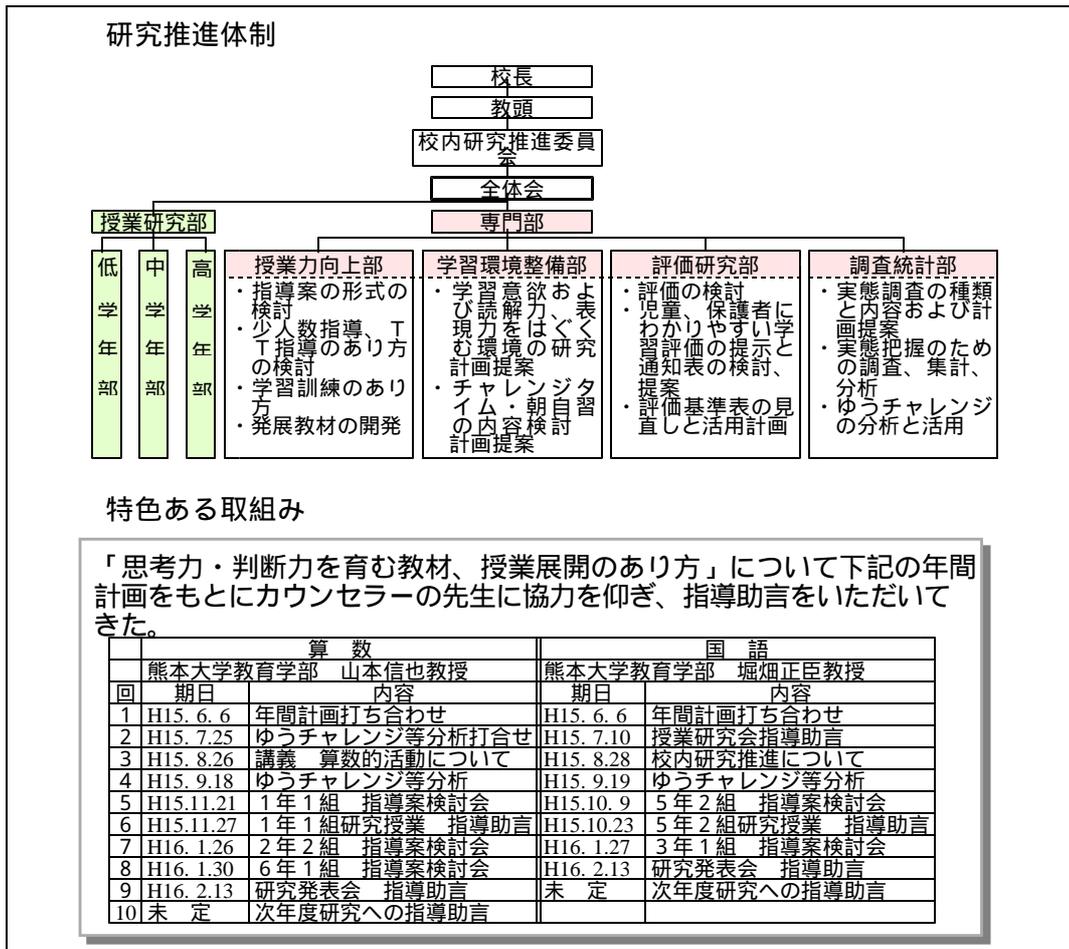
研究対象学年として全学年を対象に取り組んでいる。
標準学力検査の結果から、各学年とも成就値の伸びから個における基礎・基本の定着が見られた。ただ、本県で実施のゆうチャレンジの結果では、国語においては「関心」「書く」「読む」、算数では「関心」「考え」において全校的に落ち込みが見られた。
そこで研究にあたり、国語・算数を中心に進めることになった。
特に、「思考力育成」に焦点をあて、各教科の基礎的・基本的内容を明らかにしながら、学習指導カウンセラーの指導助言のもと研究推進を図っている。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ “ブレイクスルー”一人一人に確かな学力を保障する一小システムの構築 -基礎・基本の徹底を図り、思考力・判断力を高める指導と学習環境の工夫改善-</p> <p>研究の見通し 「確かな学力」の保障に向けて、指導形態、教材などを見直し、わかる授業を構築していくための「授業力向上のシステム」、個に応じたきめ細かい指導、支援を通して基礎・基本の定着を図るための「学習指導・支援のシステム」、個を伸ばす視点に立ち、評価を生かした授業展開と個別指導をめざす「評価のシステム」を関連つけた一小システムの構築にむけて研究を進めてきた。</p>
	<p>研究の内容・方法</p> <p>1 授業力向上システムの観点から</p> <p>(1) 算数科における取組み</p> <p>ア 基礎・基本の洗い出しを行う。</p> <p>イ 問題解決的学習過程の工夫・改善を行う。</p> <p>(ア) 各過程での育てたい力を明確化し、単位時間、単元を通して指導を行う。</p> <p>(イ) 能動型学習、徹底指導の位置づけは、子どもにどのような姿が見えたときかという点を確認する。</p> <p>(ウ) 学年の系統性を考え課題設定・提示、自力解決、共同解決の工夫改善を行う。</p> <p>ウ 個に応じ、個を伸ばすための指導形態の工夫</p> <p>(ア) 発展、補充を考えた単元構成を工夫をし、個に応じ、伸ばす指導を行う。</p> <p>基本的には単元の特徴や児童の実態に応じて学習形態の工夫をする。年度当初は基本的な学び方を習慣化するために段階的に少</p>

平成15年度	<p>人数指導へ移行していくことにする。</p> <p>(イ) 少人数、TT指導の工夫改善を通して習熟度別クラス編成など指導形態のあり方を考える。</p> <p>エ 単位時間で評価を指導の中で生かせるようなわかりやすくつけやすい評価基準の設定を行う。</p> <p>オ 学習指導カウンセラーの協力、支援、指導助言により授業力の向上を図る。</p> <p>(2) 国語科における取組み</p> <p>ア 国語科における基礎・基本を確認し定着に向けた取組みを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習指導要領の国語科の目標から見える培うべき基礎・基本</p> <p>言語を適切に使う力</p> <p>言語を使って内容や事柄を適切に表現する力</p> <p>言語の使い方を正確に理解する力</p> <p>言語で表現された内容や事柄を正確に理解する力</p> <p>～ までの力をもとに豊かに伝えあう力</p> <p>言語を手がかりに論理的に思考する力</p> <p>言語を手がかりに豊かに想像する力</p> <p>正誤・適否・美醜などの言語についての使い方が感覚的にわかる力</p> </div> <p>イ 国語科の学習展開をさぐり、思考力・判断力育成に向けての育てたい力を明らかにしていく。具体的には物語文、説明文において次の点を留意して指導展開を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つなぎ言葉に注目させ、段落の役割を理解させる段落構成の指導のあり方 ・筆者の考えから自己内省させる指導のあり方 ・題名読みから探求心を高め筆者の考えを事実に基づき読み取らせる指導のあり方 <p>ウ 書く活動を通して、内省化（筆者の考えなどと照らして自己の考えや思考を見直す活動）を図る。</p> <p>読み取ったこと、感じたことなど自分の思考や考えを整理し文章に書いていくような場を設定し単位時間の中に位置づける。</p> <p>オ 国語科において能動型学習、徹底指導の位置づけを考えていく。</p> <p>カ 学習指導カウンセラーの協力、支援、指導助言により授業力の向上を図る。</p> <p>2 学習指導・支援システムの観点から</p> <p>ア 朝自習や基礎・基本の定着の時間（きらめきタイム）の計画と活用</p> <p>イ 児童、保護者にわかりやすい評価のフィードバック（はげみ）の実施と活用</p> <p>ウ 補充指導の充実とその時間の確保</p> <p>3 評価システムの観点から</p> <p>ア 各クラスにおいて国語、算数の成長目標を設定し、授業改善につなげていく。</p> <p>イ 評価基準をさらに明確化し評価しやすいものへと改善し、その積極的な活用を図る。</p> <p>ウ 学校評価「かけはし」の実施により保護者の願いを授業改善につなげていく。</p>
平成16年度	<p>テーマ</p> <p>“ブレイクスルー” 一人一人に確かな学力を保障する一小システムの構築-基礎・基本の徹底を図り、思考力・判断力を高める指導と学習環境の工夫改善-研究の見通し</p> <p>「授業の展開や指導形態の改善」、「児童一人一人を伸ばす視点に立った評価の工夫」、「評価を生かし個に応じたきめ細かな指導」をシステム化し充実させることで、基礎・基本の定着、思考力・判断力を高めることができる。と考える。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>算数科では「試行錯誤」、国語科では、「内省化」をキーワードに基礎・基本の確実な定着、思考力・判断力の育成に向けて研究を深めていきたい。特に、算数科では教材作りを具体化させ、国語科では学習展開、ノート指導など本校としてのスタイルを具体化していく。</p> <p>また、ゆうチャレンジの分析を急ぎ、児童の実態をもとに研究の方法をカウンセラーの先生方のアドバイスのもと充実させていきたい。</p>

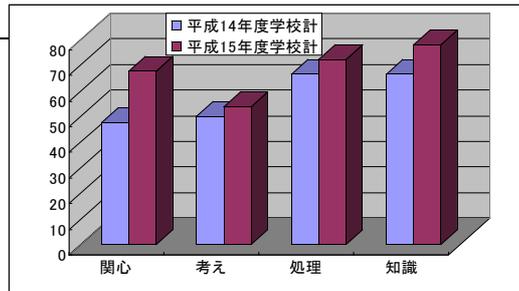
(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

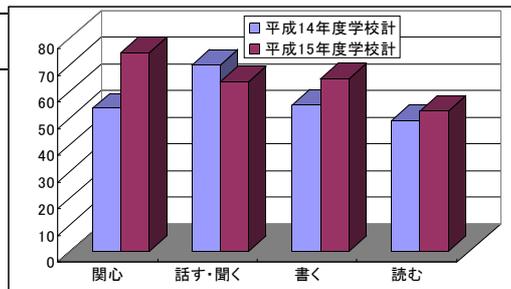
職員の授業力向上への意識が高まり、基礎・基本の定着、思考力・判断力の育成に向けて授業展開を工夫したり、教材の開発等が活発になった。子どもたちの姿として、学習を楽しんでいるものとして意欲的に活動する姿が多く見られる。昨年12月に実施したゆうチャレンジからも算数科を中心に関心意欲、思考力・判断力の高まり感じられた。



ゆうチャレンジ算数観点別正答率 (%)

2. 今後の課題

算数においては「試行錯誤を生む教材の開発」、国語科では「思考の流れを整理するノート指導のあり方」について明確に本校のスタイルがまだできあがっていないとはいえない。その2点を含め単位の充実を図っていくことで、より一層子どもたちに学習の楽しさ、充実感を味わわせていくことが確かな学力の育成につながると考える。



ゆうチャレンジ国語観点別正答率 (%)

学力等把握のための学校としての取組

平成 14 年 2 月 第一回 ゆうチャレンジ(国・算)実施
自ら学ぶ意欲や思考・判断力、表現力までを含めた到達度を客観的に把握するために実施。
平成 14 年 2 月 標準学力検査(国・算)実施
年間の学習内容の到達状況を把握するために実施。
平成 15 年 7 月 児童意識調査実施
・授業について(8項目 3年生以上対象)
・家庭学習について(10項目 3年生以上対象)
・友達関係について(4項目 全児童対象)
・家庭生活について(9項目全児童、一部3年以上)学習
平成 15 年 10 月 児童意識調査実施
・少人数、T T 指導について
平成 15 年 12 月 第二回 ゆうチャレンジ(国・社・算・理)実施
平成 16 年 1 月 標準学力検査(国・算)実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成 15 年 10 月 23 日 学力向上対策協議会にて公開授業および研究の進捗状況の報告会を実施
平成 16 年 2 月 13 日 研究成果普及のために研究発表大会(1年次)を実施予定
パンフレット作成し、他校および保護者への配布予定。
研究成果普及のためのホームページ作成を検討中。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無